

令和2年度 単位自治会セミナー 開催結果報告

令和2年10月24日（土）
稲毛区地域振興課
地域づくり支援室

1.行事概要

1 開催概要

1 行事名	令和2年度単位自治会セミナー
2 開催趣旨	町内自治会会長・役員等を対象に、町内自治会運営のノウハウや全国の先進事例を学ぶためのセミナーを開催し、区内の町内自治会の円滑な運営を支援する。
3 日時	令和2年10月24日（土） 講義①10:30～11:45 講義②13:00～14:00 講義③14:30～15:30
4 会場	穴川コミュニティセンター 1階 多目的室
5 参加者数	町内自治会関係者として、 講義①28人 講義②32人 講義③17人 延べ 77人 その他関係者（視察）として、2人 計 79人
6 対象	稲毛区内の町内自治会の会長・役員等
7 参加費	無料

2 プログラム

講義① 10:30～ 11:45 (10:15開場)	講義① 【テーマ】 ウィズコロナで求められる、困ったときに助け合える地域の絆 ～これからの共助コミュニティづくり～
講義② 13:00～ 14:00 (12:45開場)	講義② 【テーマ】 町内自治会運営 実務の基礎 ～規約、総会、役員規程、個人情報取扱、監査、会計など～
講義③ 14:30～ 15:30 (14:15開場)	講義③ 【テーマ】 魅力的かつ効果的な広報の作成 ～はじめてのコミュニケーション「加入案内チラシ」の作成～
備考	3つの講義を時間差で開催し、参加者が各自で興味・関心の高い講座にお申込みいただける形式とした。なお、事前申込制とし、個人による複数の申込も可であった。 また、参加者には各自マスクの着用・手指の消毒、健康チェック票の提出などの協力をいただくとともに、各回の合間に会場内の消毒作業を行うなど、感染症対策に配慮し実施した。

2. 講師プロフィール及び講義の内容



水津 陽子 (すいづ ようこ) 氏

島根県生まれ。高校卒業後、石油会社、官公署、税務会計事務所勤務などを経て、1998年、経営コンサルタントとして独立開業。地域資源を活かした観光や地域ブランドづくり、地域活性化・まちづくりに関する講演、コンサルティング、調査研究および執筆等を行っている。

2014年11月5日には、地方創生法に関連し、衆議院経済産業委員会に参考人出席。著書に「トラブル解消、上手に運営！自治会・町内会お悩み解決実践ブック」、「こうして地域のリスクに備える！令和・アフターコロナの自治会・町内会運営ガイドブック」（いずれも実業之日本社刊）などがある。

【当日の講義内容】

講座①：「ウイズコロナで求められる、困ったときに助け合える地域の絆～これからの共助コミュニティづくりとは～」

「コロナ禍における町内自治会の活動の変化と、今後求められる活動」、「イベントの中止、また中止による会費の取扱い」、「コロナ禍における会のコミュニケーション」、「これからの地域における見守り活動や・つながりづくりの在り方」等を主題とした講義を行った。

講義②：「町内自治会運営 実務の基礎 ～規約、総会、役員規程、個人情報取扱、監査、会計など～」

テーマに沿った基本的実務について、トラブル事例などの紹介を交えた講義を行った。また、コロナ禍の運営にあたり、より実用性の高い規約への改正（例えば書面開催の規定の盛り込み）等について触れた。さらに、未加入者への対策、及び退会者への対応等についても盛り込まれた。

講義③：「魅力的かつ効果的な広報の作成～はじめてのコミュニケーション「加入案内チラシ」の作成～

魅力的かつ効果的な広報のコツ、及び加入案内やイベント等チラシの作成について、講義を行った。また、チラシのフォーマットをもとに、参加者がアレンジを加えるセルフワークを実施した。

4. 質疑応答について (1)

新型コロナウイルス感染症に配慮した実施方法の一環として、当日の質疑応答は行わず、参加者へ配布した質問シートにご記入いただき、後日講師から回答を得た。参加者からの主な質問と講師からの回答の要旨は以下のとおり。

Q1. 会員のアンケートについて記名で行うのか、または性別、世代別、家族構成などに留めるのか。記名で行った場合、弊害はあるのか。

A1. アンケートの方式は、自治会の方針やアンケートの目的によって決定されます。記名で行う場合もあれば、そうでない場合もあります。設問で性別や年代等を入れるかについても同様です。アンケートを何の目的で行うのか、何を知りたいのかにより決定されます。自治体等でもいろいろなアンケートは行っていますが、アンケートはしても結局それを分析したり活用したりできていないところが散見されます。記名式の場合、自由な意見が言いにくいと感じる人もいるので、より忌憚のない意見を聞きたいと思えば、無記名で記入したアンケート用紙は封筒に入れて封をして回収するのが良いでしょう。

Q2. 回覧板（内容書類etc）保管は必要か。

A2. 回覧板の保存期間はそれぞれの団体で定められると良いと思います。内容に個人情報などが含まれる場合はシュレッダーにかけて破断廃棄するのがベストだと思います。

Q3. 書記内容は提示する必要があるか。

A3. 書記については役割として記録している場合は議事録等にまとめて回覧するということになると思いますが、個人的に備忘のためメモしているものは要請がない限り提示は不要ではないでしょうか。

Q4. 近所が疎遠になり、高齢者や子どもの見守りの必要性が叫ばれる中、顔の見えるつながりである回覧や会議、集金システムのデジタル化はベストではないかもしれない。日常のバランスの中で各々の効用を整理して欲しい。

A4. それぞれの団体でどのようにデジタルを活用していくかを考えるということです。すべてがデジタル、ゼロサムの話ではなく、若い世代、働く人が参加できるには不可欠だし、リアルな場も当然必要です。デジタルはあくまで手段であり、ツールです。

4. 質疑応答について (2)

Q5. 現在、自治会活動への協力者が少なく、名簿のみの会員が年々多くなっている。このような縮小傾向の中、自治会の回復方法等、参考例を含めて紹介して欲しい。

A5. 拙著最新刊「こうして地域のリスクに備える！令和・アフターコロナの自治会・町内会運営ガイドブック」では9つの先進事例を、前著「トラブル解消、上手に運営！自治会・町内会お悩み解決実践ブック」では3つの先進事例をご紹介します。良かったら参考にしてください。

Q6. 業務監査とはどのようなことをするのでしょうか。

A6. 業務監査については、会計業務以外での不適切な行為や不正等がないかを判定するものです。組織や制度など、役員の立場や権能を逸脱したり、脱法違法などの行為がないかを見るものです。資料から読み取り発見できる部分と会員の訴えなどから、問題があれば臨時総会を開く場合もあるでしょう。

Q7. 退会者に対する引き留めの方法があるなら教えてください。

A7. まずは退会理由をお尋ねして、会費が負担であれば、軽減策などを会として検討したり、役について不安があれば、配慮するなど、代替案、入っておくことのメリット等を示して思い直してもらおうという例が多く見られます。その方にとってメリットが感じられなければ、或いはメリットがないのであれば、退会は当然の流れともいえます。遠回りでも必要な共助の仕組みだと感じてもらえる活動こそが一番の引き留めになると考えています。

Q8. どうしたら健康年齢を上げられるか。高齢者の自治会に対する考え方。

A8. 心身の健康に加え、人や社会と建設的でよい関係を築ける「社会的健康」こそが健康長寿につながるとされています。一人暮らしの高齢者が一日誰とも話もせず、家に閉じこもって孤立死することがないように「居場所づくり」や「困った時の助け合い」のしくみなども考えていくと良いのではないのでしょうか。

4. 質疑応答について (3)

Q9. LINEやSNSの活用で、携帯やスマホを持っていない人や不得手の人への普及に困っています。

A9. 携帯やスマホを持っていない人についてはアナログを併用していくことが求められます。不得手の人については会議や活動で会うたびごとに仲間で教え合うなどして徐々に慣れて頂くように工夫されています。

Q10. 自治会でホームページを作っていますが、何故ホームページ作りが講座内で紹介されないのですか？費用が高額なせいでしょうか？

A10. 講師の立場からの見解としては、一般的なホームページ作成講座はパソコンを使いこなしている人を集めて行う場合、1回の講座でも十分でしょう。しかし、スキルがバラバラ・一定の水準にない場合、ホームページ作成講座があってもなかなか使いこなせません。

また、以前IT化支援として自治体で講座や支援が多数行われましたが、作ったものの更新ができない団体がほとんどでした。一方で、現在は無料のブログシステムで、簡単にホームページが作れます。講座の資料にあったスマホでも更新できるものもありますので、費用によるものではなく、これを使いこなせる団体とそうでない団体があり、自分たちで更新できることが導入や継続に不可欠の要件となると思います。

ホームページ作成を会員やボランティアでITが得意な人をお願いして作っているところもありますが、充実には更新が欠かせないため、その人材が必要となります。自分たちでできるメールでのテキスト版の会報の配信などで対応しているところもあります。

Q11. 災害への対応は規模が大きすぎて自治会には不向き。リストを作る時に必要な個人情報の取り扱いも一言必要ではないか。

A11. 災害の規模が大きければ大きいほど、共助の差が防災、減災の差につながります。いざという時、顔の見える関係があることが最大の共助でもあります。災害時の対応については拙著「こうして地域のリスクに備える！令和・アフターコロナの自治会・町内会運営ガイドブック」の中で熊本地震を例に課題と必要な取り組みを紹介しています。良かったら参考にしてください。ここでいうリストが何を指すか分かりませんが、事前に目的を定めて利用するため、それに同意して個人情報の提供が行われていると思います。名簿を作る時は本人同意の上、提供頂き、作成するのは言うまでもありません。

4. 質疑応答について (4)

Q12. コロナ時代に必要な書類による総会規定も説明してほしい。書面評決とは異なるはず。

A12. 実際に集まって総会を開催しない場合は委任状や書面評決による議決を諮ることとなります。

Q13. 入会して良かったと思える事業を増やすとあるが、現在は会員・非会員の別により行事に参加できないなどはない。会員のみの行事とした場合差別につながらないか。

A13. 退会する理由が、メリットがない、魅力がない、負担が多いなどの場合、入会する理由となる自治会の意義が必要となってくるでしょう。その意義、魅力が何か、何を行うかは各会で検討され、会員の総意で決定されるものです。総意で決定したことで、公序良俗や法や道徳に反することがなければ、差別には当たらないのではありませんか。

Q14. 帳簿の公開は請求があった場合に行っているが、請求が無い場合で、「不正」ではなく、「疑い」があった場合はどうするのか？総会で承認を得ているので訂正はせず、次年度で調整しているがそれで良いのか。

A14. すでに終わった事業等で間違いがあったり、問題を指摘された場合に、年度内に錯誤等で処理する場合は、何時何時こういう指摘があり、このように訂正したなどの記録を残し、次年度の総会で報告すれば良いでしょう。年度内の処理ができない時は次年度で調整しても良いと思いますが、顛末等きちんと記して総会に報告して承認を得てください。

Q15. チラシで悪い例は分かったが、できれば良い例を。

A15. 講座資料の中で、悪い例以外は良い例示として参考にしてください。

4. 質疑応答について (5)

- Q16. 東京等全国的には、集合住宅の住民は避難所には避難できないということになっているようですが、千葉市ではそういうことは決してありません。
千葉市では避難所は災害時の地域の拠点であり、千葉市では多くの集合住宅の者が運営に携わっているのが現状です。防災についての千葉市における認識を改めていただきたいと思います。
- A16. 説明不足の部分があったかと思いますが、集合住宅の方は避難所に入れないのではなく、①避難所のキャパシティ、②避難所は家屋が倒壊するなどして住めなくなった人が避難する場所であるという一般的な例をお話したものです。指定避難所としてのキャパシティは稲毛区の人口約16万人を収容するには足りないとの認識を持っておりました。認識が間違っておりましたら申し訳ございません。
- Q17. 実行委員会方式で活動をする際の予算の割り当て、役員会の関与のあり方。
- A17. 予算については各会で割り当てや手当をすることになります。役員会として関わるのか、役員の誰かを中心に置くのかは団体によって様々です。ただ、組織としてはフラットに上下関係ではなく、対等な立場で意見が言える、協力していくということが大切です。
予算としてはこれまでの自治会の予算だけでなく、様々な補助金・助成金、企業等からの協賛金などを得て行うことも少なくありません。
- Q18. 輪番制による役員会の運営のポイント、留意点、実例などを教えてください。
- A18. 基本あくまで選び方の問題だけであって、特別他の方法と異なる点はありません。順番でやっていくだけですが、そういう意味では仕方なくやっている。多くは1年の任期で新しいこともあまりせず、前例踏襲で改革が進まない弊害はあるようです。
- Q19. 大災害に備えるための備品、量の指針。
- A19. 個人としては1週間は自助で生活できるような備えということになりますが、会としてなら予算との相談になってくるのではないのでしょうか。
拙著「トラブル解消、上手に運営！自治会・町内会お悩み解決実践ブック」では、浦安市の海風の街自治会の防災の取り組みを紹介しています。良かったら参考にしてください。

4. アンケートの結果について（1）

当日の参加者に対し、今後の運営の参考とするため、アンケートを実施した。

【回収率等について】

参加者の実数： 50人（複数講座を受講した者は1部のみ提出）
回収枚数： 50部
有効回答： 50部
回収率： 100%

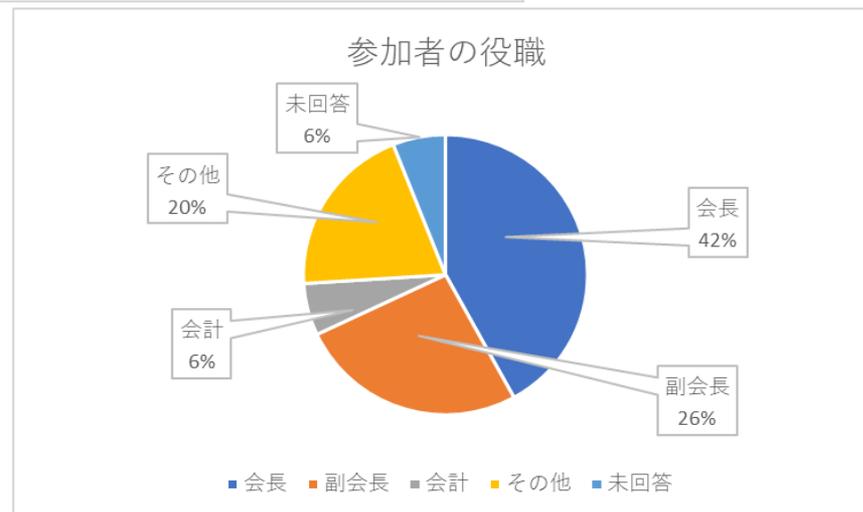
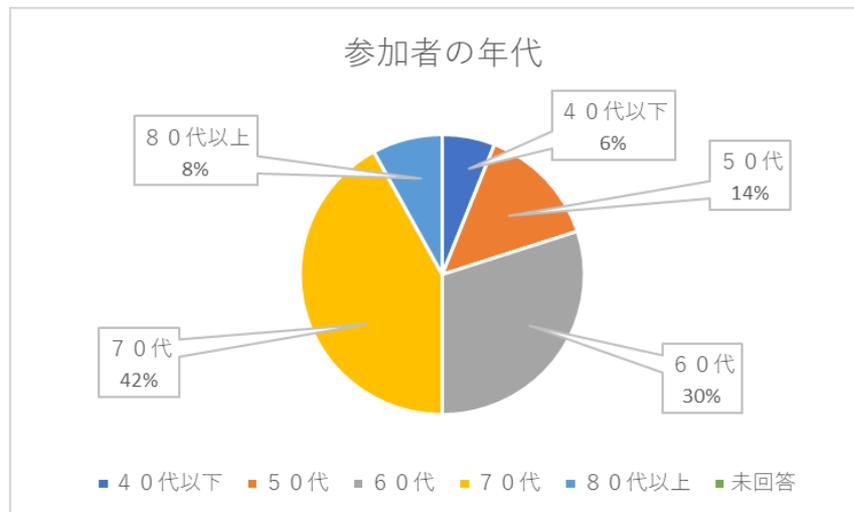
【参加者について】

①参加者の年代

選択肢	回答者数
40代以下	3
50代	7
60代	15
70代	21
80代以上	4
未回答	0

②参加者の役職

選択肢	回答者数
会長	21
副会長	13
会計	3
その他	10
未回答	3

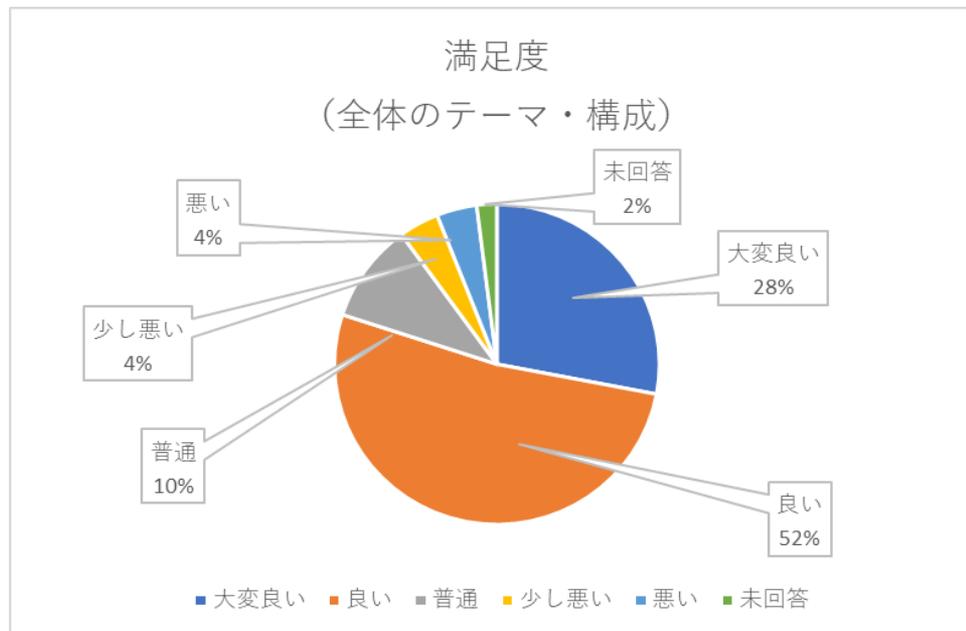


4. アンケートの結果について (2)

【今回のセミナーの満足度について】

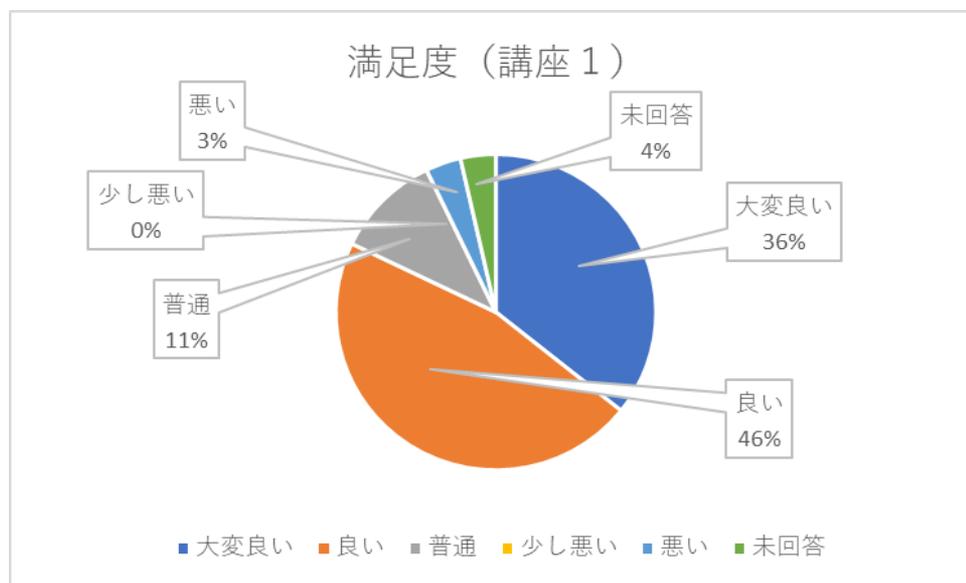
①全体のテーマや構成について伺った。
以下より選択し、回答する。

選択肢	回答者数
大変良い	14
良い	26
普通	5
少し悪い	2
悪い	2
未回答	1



②講座1の満足度について伺った。
以下より選択し、回答する。

選択肢	回答者数
大変良い	10
良い	13
普通	3
少し悪い	0
悪い	1
未回答	1

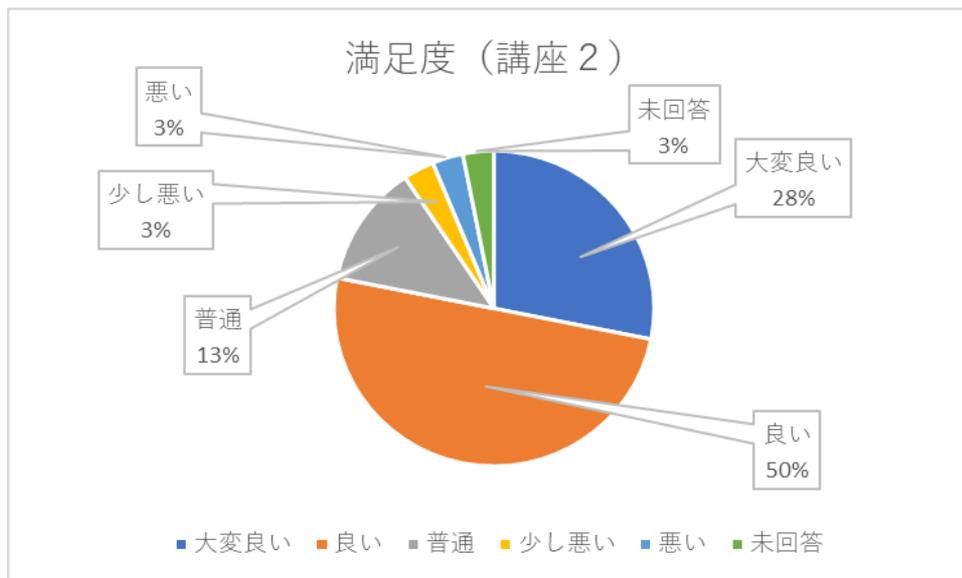


4. アンケートの結果について (3)

③講座2の満足度について伺った。
以下より選択し、回答する。

選択肢 回答者数

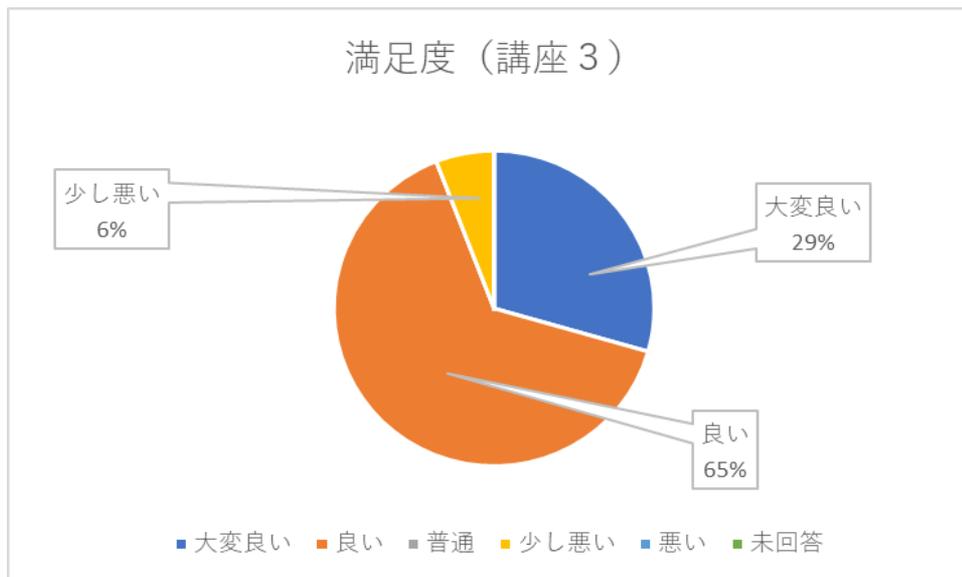
大変良い	9
良い	16
普通	4
少し悪い	1
悪い	1
未回答	1



④講座3の満足度について伺った。
以下より選択し、回答する。

選択肢 回答者数

大変良い	5
良い	11
普通	0
少し悪い	1
悪い	0
未回答	0



4. アンケートの結果について (4)

【今回のセミナーの成果について】

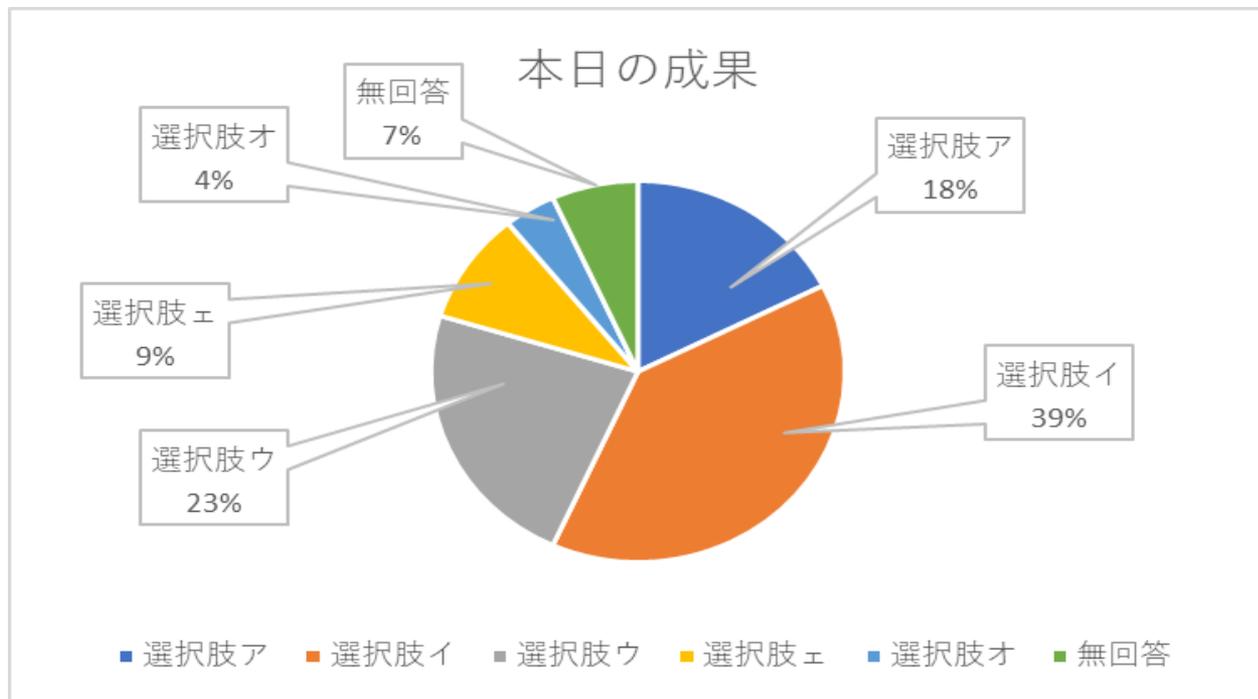
① 今回のセミナーで得た成果について、伺った。以下の選択肢より選択し、回答する。
なお、オ「その他」を選択した場合にはその内容を自ら記載する。

- ア ウィズコロナの地域共助について
- イ 町内自治会運営の見直しに関すること
- ウ 規則や会計、広報など具体的な実務に関すること
- エ 他都市の活動事例紹介
- オ その他

選択肢	回答者数
選択肢ア	13
選択肢イ	29
選択肢ウ	17
選択肢エ	7
選択肢オ	3
無回答	5

※オ「その他」の主な内容

- ・ デジタル化の導入
- ・ 今後加入案内書の作成をしたい
- ・ 方向性の一部を聞いた
- ・ 考え方が柔軟になった



4. アンケートの結果について（5）

②今後の運営にぜひ取り入れたい内容があったか、自由記述により伺った。

回答は以下のとおり。同様の内容の回答が複数あった場合には末尾に括弧書きで件数を記載する。

- ・ 会員の声を聞くアンケート。（3）
- ・ 従来は役員等のみアンケートを行っていたが、全員アンケートを考えたい。
- ・ イベント開催後の検証を行うこと。
- ・ 町内会ホームページの開設、メール・SNSの運用等。
- ・ 加入率低下、退会者対策について、例題を参考に再考したい。
- ・ 後任の引継ぎ書（マニュアル）の作成。（2）
- ・ 運営の不透明性の見直し。未加入者の対策。
- ・ 運営の見直し。
- ・ 退会者対策→個別・お互い様活動
シルバー人材センターに依頼するほどではない困りごとを共助することで安心して暮らせる地域をつくる。
- ・ 収支をグラフ化して一目で内容がわかるものにする。
- ・ 自治会活動の活性化。
- ・ 内容は同じでも、チラシで異なる集客力。デザインやレイアウト。（2）
- ・ 商品券などで還元する考え方。参考にしたい。
- ・ zoom、デジタル回覧版、メールアドレス設定など。
- ・ やや活発性に欠ける自分の自治会を考え直す機会になった。規約も見直す必要がありそう。
- ・ 実行委員会方式の活動。
- ・ 広報の講座が参考になった。（3）
- ・ ITの活用について。早速会に提案してみたい。
- ・ 防災体制の見直し。
- ・ 事業の検証。

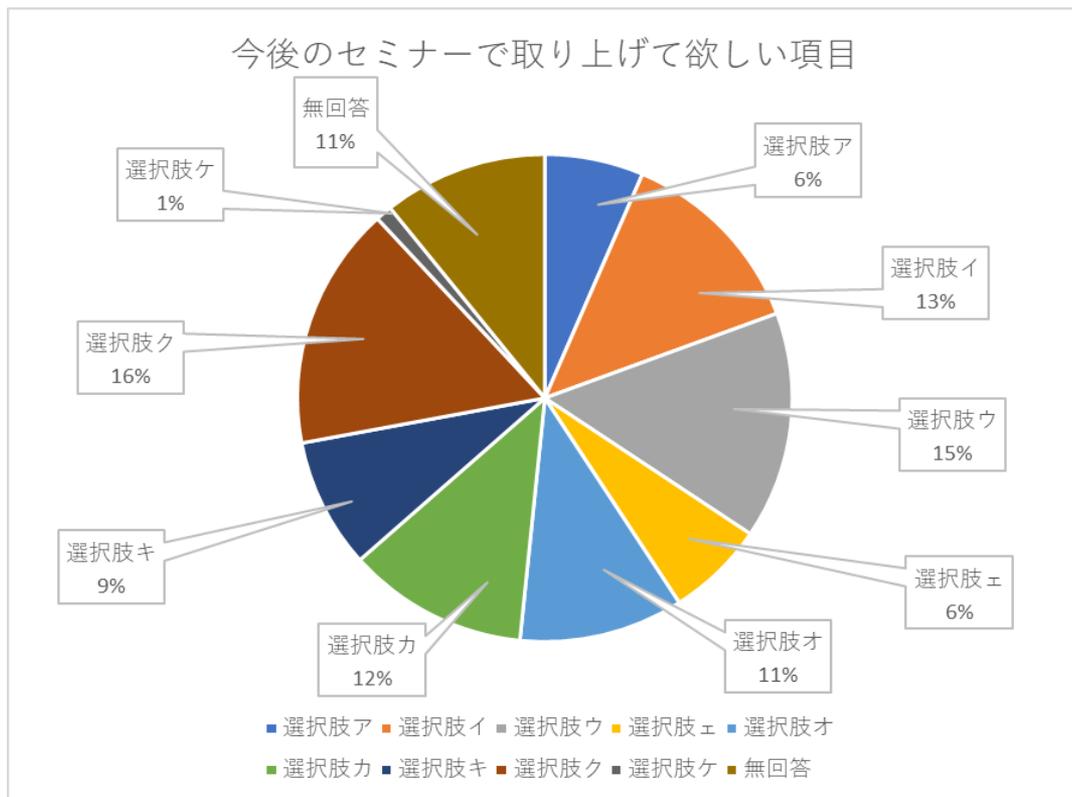
4. アンケートの結果について（6）

【今後のセミナーについて】

- ① 今後のセミナーで取り入れて欲しい内容を伺った。以下の選択肢より選択し、回答する。
 なお、ケ「その他」を選択した場合にはその内容を自ら記載する。

- ア まちづくりに関する有識者による講演
- イ 他都市等における先進事例の紹介
- ウ 稲毛区内の町内自治会等との意見交換
- エ 運営に関する基本的実務に関すること
- オ 新しいイベントの開催や広報に関すること
- カ 新規加入者の獲得に関すること
- キ 役員の引継ぎに関すること
- ク 役員の負担軽減に関すること
- ケ その他

選択肢	回答者数
選択肢ア	6
選択肢イ	12
選択肢ウ	14
選択肢エ	6
選択肢オ	10
選択肢カ	11
選択肢キ	8
選択肢ク	15
選択肢ケ	1
無回答	10



※ケ「その他」の主なもの

- ・ 町内会費不払い、町内会脱会希望者への対応策。
- ・ 会員になっていただく（自治会費を徴収する）、特にアパート住民の、コツを得ること。
- ・ 個々の事ではなく、新しい取り組み、熱意ある取り組みを紹介してほしい、参考にしたい。
- ・ 輪番制の役員会についてのポイント、留意点、良い点など。

4. アンケートの結果について（7）

【その他、ご意見・ご要望など】(同様の内容があった場合には末尾に括弧書きで件数を記載する)

○本セミナーの内容に関する感想等

- ・自治会の在り方は柔軟に見直すべきだと思いました。
- ・ありがとうございました。意識改革を含め参考になりました。
- ・理想論ではなく衰退からの脱却方法、再構築の方法が知りたい。常識論は不要。
- ・会長の選出がどこも共通課題であることがわかりました。
- ・単位自治会内の事情はそれぞれなので、講義形式ではなかなか難しいと感じた。
- ・もう少し時間が欲しい、詳しく知りたい。具体例などを知りたい。（2）

○本セミナーの運営に関する感想等

- ・入館時の非接触型体温計による検温を実施してほしい。
- ・質疑の時間があった方が良かった。
- ・コロナ禍ということで仕方がないが、やはり質疑応答の時間が欲しい。質問シートは表現に細かい表現に限界がある。
- ・資料のクリップ止めは不要。扱いに困る。

○会の運営に関すること

- ・ページ8にあるように総論賛成各論反対（自分になりたいわけではない）と考える人が多すぎる。
高齢者や大人が多い、これからの子供たちの教育について考えていくことが大切と考えます。
- ・独居老人（75歳以上）の見守りを計画中。
- ・超高齢化社会の形成途上である今日、如何に共助（協助）の精神が自助を補完できるか、独居老人の見守りや手助け等、組織的・体制的に完備する必要あり。我が団地では独居・独死の予防・防止が急務と考える。
- ・地域性なのか、旧態依然の慣習を好む住民が多い。変化に対応できない地域、無関心な住民。
- ・高齢者の問題（フレイル）について課題。
- ・自治会を脱退していく人の問題。

4. アンケートの結果について（8）

【その他、ご意見・ご要望など】（同様の内容があった場合には末尾に括弧書きで件数を記載する）

○その他関連するご意見・ご要望等

- ・自治会が抱える課題は行政が抱える課題である。ついては、町内自治会を対象にアンケート調査（実態調査）を実施し、問題点の掘り起こしをしたらいかがか。今後の行政の対策に結び付け、町内自治会の活性化につなげてはいかがか。
- ・千葉市は自治会加入を奨励しています！など、PRして良いのか？アパートの建築許可を出す際に自治会加入をオーナー条件とするようなことはできないのか。
- ・事業者（企業）からのバックアップをお願いしたい。（駐車場を一時的な避難所にするなど）

【まとめ】

- ・いずれの講座も「大変満足」「満足」が概ね80%前後となり、総合的に、参加者からは一定の満足を得たといえる。特に、年代としては50代以下の方、また役職としては会計、理事や総務部など、実務に携わる方からの評価が高い傾向にある。
- ・今回参加した成果としては、「町内自治会運営の見直しに関すること」を選択した方が最も多い。また、自由記述においても、具体的な見直しの手法（会員アンケートやデジタル化など）が多く挙げられている。
- ・今後のセミナーで取り入れて欲しい内容として最も多く回答されたのが「役員の負担軽減に関すること」、次いで「稲毛区内の町内自治会との意見交換」であった。なお、「他都市の先進事例の紹介」や「新規加入者の獲得について」等も比較的希望が多かった項目となる。
これらのことから、将来に向けて持続的な運営の手法を検討することに対する関心が高く、他団体の運営の事例などを参考にしたい希望が強いと考えられる。
- ・これらのご意見等を踏まえ、今後のセミナー運営について検討を行っていく。

以上